The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	福岡市方言におけるアスペクトマーカではないヨルの用法について
Author(s)	平塚, 雄亮
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2008, 8, p. 101-115
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/23199
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『阪大社会言語学研究ノート』第8号（2008年3月）101-115

福岡市方言におけるアスペクトマーカではないヨルの用法について

平塚　雄亮

【キーワード】福岡市方言、ヨル、劇的現在用法、感情・評価の現在

【要旨】

本稿では、福岡市方言を対象に、一般に不完成相のアスペクトマーカであるとされるヨルが不完成相のアスペクトマーカとして機能しないという用法について取り上げた。その結果、不完成相のアスペクトマーカとして機能しないヨルは、以下の4つの用法に現れることを明らかにした。

(a) 話し手自らが目撃した具体的出来事を、感情・評価的に表現し、発話時における記憶の生々しさを伝える劇的現在用法（工藤2006a）

(b) 疑問詞疑問文において非過去形で用いて、動作主体や出来事に対する話し手の意外性を前面化する用法（工藤（2006a）で「感情・評価の現在」と呼ばれている用法にあたる）

(c) ヨルトヤロ（ウ）やヨロ（ウ）の推量の形で用いられ、聞き手の見込みを裏切る予測をする用法

(d) ヨルトヤケンという形で用いられ、動作主体や出来事に対する否定的な評価を前面化する用法

以上の4つの用法に現れるヨルは、不完成相のアスペクトマーカとしての機能を離れ、何らかのムード性を担っていると考えられる。

1. はじめに

京阪を除く西日本方言の多くには、ヨル・トルというアスペクトマーカがあり、前者は不完成的な意味を、後者はパーフェクト的な意味を表すとされている（工藤2004など）。しかしながら、福岡市方言においては、ヨルが不完成相のアスペクトマーカとして機能しない用法が存在する。不完成相のアスペクトマーカとして機能しないヨルは、以下の4つの用法に現れる。

(1) 話し手自らが目撃した具体的出来事を、感情・評価的に表現し、発話時における記憶の生々しさを伝える劇的現在用法（工藤2006a）

　昨日地震があって、台所の食器が全部落ちヨルケンネ。

(2) 疑問詞疑問文において非過去形で用いて、動作主体や出来事に対する話し手の意外性を前面化する用法（工藤（2006a）で「感情・評価の現在」と呼ばれている用法にあたる）

A：昨日、10万円の羽毛布団を買ったんだ。

B：何買いヨルト？バカじゃないの？

(3) ヨルトヤロ（ウ）[1] かヨロ（ウ）という推量の形で用いて、聞き手の見込みを裏切る予測をする用法

A：おれ、今から告白してくるから。

B：ふられ｛ヨルトヤロ（ウ）／ヨロ（ウ）｝。　（標準語訳：ふられたりして。）

(4) ヨルトヤケン[2] という形で用いて、動作主体や出来事に対して否定的な評価を前面化する用法

（友人が目の前でガムを踏んだのを見て）ガム踏みヨルトヤケン。

（標準語訳：ガム踏むんだから（踏んでやがんの）。）

以上のような、ヨルが不完成相のアスペクトマーカとして機能しない用法については、これまであまり研究がなされていない。本稿は、福岡市方言を例に、(1)～(4) の4つの用法において、ヨルがどのようなふるまいをするかについて述べるものである。分析にあたっては、福岡市方言を母方言とする筆者（25歳、1年間の海外留学を除き23歳までを福岡市で過ごし、以後現在まで大阪府在住）の内省を用いる。

以下、2節でアスペクトマーカとしてのヨルの機能を簡単にまとめたうえで、3節で (1) の劇的現在用法について、4節で (2) の動作主体や出来事に対する話し手の意外性を前面化させる用法について、5節で (3) の聞き手の見込みを裏切る予測をする用法について、6節で (4) の動作主体や出来事に対する否定的な評価を前面化する用法について述べる。最後に7節で、本稿のまとめと今後の課題について述べる。

本稿で用いる例文は、ヨル・トルと後接要素のみをカタカナ表記の方言形とし、その他は理解の便を考えて標準語形で示す。なお、福岡市方言ではヨル・トルは、ヨー・トーという音声的なバリアントで出現することがほとんどであるが、本稿ではヨル・トルという形で統一して表記する。

2. アスペクトマーカとしてのヨル

ここではまず、アスペクトマーカとして働くときのヨルの機能について整理しておく。福岡市方言にはヨル・トルというアスペクトマーカがあり、それぞれ不完成的な意味・パーフェクト的な意味を表すのに用いられる。これと完成的な意味を表す無標の形[3] が、いわゆる3項対立のアスペクト体系をなしている。

(5) 部屋に入った。弟が寝｛タ／ヨッタ／トッタ｝。

---

1) ヨルトヤロ（ウ）は、ヨ（ル）ッチャロ（ウ）という音声的なバリアントで出現する場合が多い。

2) ヨルトヤケンは、ヨ（ル）ッチャケンという音声的なバリアントで出現する場合が多い。

3) 本稿では、ヨルやトルがつかない形を「無標の形」とする。

テクスト的な観点から見ると、「A：部屋に入った」という出来事と「B：弟が寝｛タ／ヨッタ／トッタ｝」という出来事の時間関係は、それぞれ以下のようになる。

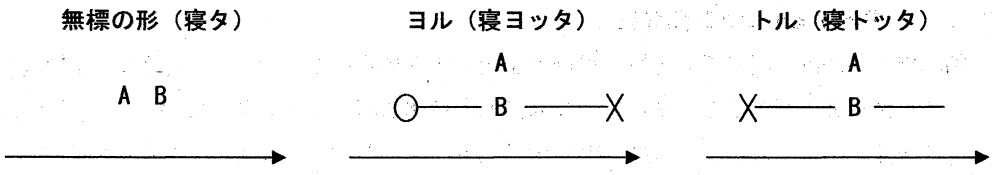

図１　ＡとＢの時間関係（→は時間の流れを、○は開始限界達成時を、×は終了限界達成時を表す）

無標の形を用いると、A と B は時間的に隔絶しており、2 つの出来事のテクスト的な関係性は継起的になる。ヨルを用いると、A と B は同時的であり、なおかつ B が開始限界達成後・終了限界達成前であることが示される。トルを用いると、B が終了限界達成後であることが示される。このように、ヨルがアスペクトマーカとして機能するときは、開始限界達成後・終了限界達成前という時点を表し、基本的に不完成的な意味を表すのである。本稿では、ヨルがこの基本的な意味を離れ、不完成相のアスペクトマーカとして機能しなくなる用法について述べていく。

3.　劇的現在用法に用いられるヨル

工藤（1995）によると、話し手自らが目撃した具体的出来事を感情・評価的に表現し、発話時における記憶の生々しさを伝える場合、過去の事態であっても非過去形が用いられるという。この用法は、工藤（2006a）によると、劇的現在用法[4]と呼ばれている。ここでは、福岡市方言では劇的現在用法において、ヨルが完成的な意味を表すときにも用いられるということを述べていく。まず 3.1 で劇的現在用法の特徴について標準語を例に述べたうえで、3.2 で福岡市方言の場合について論じる。

3. 1.　標準語の劇的現在用法の特徴

劇的現在用法とは、既に述べたように、話し手自らが目撃した具体的出来事を感情・評価的に表現し、発話時における記憶の生々しさを伝えるものである。過去の出来事を提示するのに無標の形やテイルの非過去形を用いることで、過去の出来事の記憶の生々しさ（＝発話時における心理的現存性）を表現することになる。そこで示される出来事が完成的であれば、完成相の無標の形が用いられ、継続的であれば、継続相のテイルが用いられる。

ここからは、工藤（1993;1995）を整理することで、特に標準語における劇的現在用法の

4）　工藤（1995）では「歴史的現在用法」とされていたが、工藤（2006a）では「劇的現在用法」と改められている。本稿では工藤（2006a）にしたがい、「劇的現在用法」とする。

特徴について概観する。3.1.1 で共起する形式や時間表現との関わりについて、3.1.2 でどういったときに劇的現在用法が現れるのかについて述べる。

3.1.1. 共起する形式と時間表現

劇的現在用法は、話し手の感情・評価性を明示する形式をともなうことが多い。標準語の場合、ノダ文であること、または、文末詞的な準体助詞ノをともなっていることがほとんどであると言ってよい。さらに、デハナイ（カ、ノ）が付加されている場合が多いことも指摘されている（以下、標準語の用例は、工藤（1993;1995）で挙げられている小説からのものをそのまま引用する（カッコ内は出典））。

(6)「私は立花茂造だといくら言っても警察は私を賊だときめてつかまえるんですよ。ひどいものです」（恍惚の人）

(7)「ちょうどガレ場を降りたところだったな。ひょいと見ると、あいつがいるじゃないか。灌木の上に、普通のアゲハがやるように、こうはねをひろげてべったりととまっているんだ。俺だって初めは本気にできなかったさ。」（たにまにて）

このように、ノダ（または文末詞的な準体助詞ノ）やデハナイ（カ、ノ）が、劇的現在用法における感情・評価の説明の機能を果たしている。また、(6) の「ひどいものです」のように、感情・評価的な態度が明示されることも多いが、場面・文脈的に明らかな場合は、(7) のように、はっきりとはそれをともなわないこともある。

また、劇的現在用法は、過去を意味する時間表現と共起することも特徴的である。

(8)「この間もその父が手紙を寄来して、お前が赤になるとおれは割腹しなければならんなんておどかして来るの。私は自分も生命がけですから、お父さんの生命のことまで考えていられませんて返事してやったわ」（朱を奪うもの）

(9)「昨日の午後？もういないのか？」
「ええ、わたしもおどろいたわ。昨日の午後になって急に言い出すんですもの。あんな引越しってないわ」（砂の器）

「この間」や「昨日の午後になって」などという、過去を意味する時間表現は、本来述語が過去形の場合に共起しうるものであるが、劇的現在用法においては、テンス形式との本来の選択制限が破られ、非過去形と共起することになる。これについては、後述する福岡市方言においても全く同じことが言える。

3.1.2. 劇的現在用法が用いられるとき

劇的現在用法は、話し手自らが目撃した具体的出来事に対して用いられるものであるが、出来事が話し手自身に起こっている場合もある[5)]。(10) は、話し手自身に関わる出来事の

5) 工藤（1993;1995）では言及されていないが、動作主体が話し手自身（＝一人称）の場合、劇的現在用法で出来事が表されるのは、その出来事に意志性がない場合（受身を含む）に限ら

場合の例である。

(10)「ところが俺はその日ここに帰ってきてから泣いたよ。水のような涙があとからあとから流れでるんだな。自分の泣き顔を見るのがいやで、俺はお祖父さんの能面を壁からはずしてつけてみた。それから鏡をみた。そこにかかっている節木増だ。・・」　(薪能)

劇的現在用法は、話し手の知覚性、話し手の感情・評価的態度の表出性、発話時における過去の出来事の心理的現存性という意味で、ムードと強い相関性がある。したがって、話し手の心的態度が、客観的（＝事実確認的）であれば、過去形が選択される。つまり、劇的現在用法で表すどうかは、話し手の心的態度の違いに基づく。(11) は、客観的・叙述的に過去の出来事を述べていく例であるため、非過去形には置き換えられないものである。

(11)「最後はどんなでした」

「ずっと眠っていました。朝方、私も少し眠りました。目が覚めた時はまだ、息をしていました。けれど、私がちょっと部屋の外へ出て、帰って来てみると、もう呼吸をしていませんでした」　(時の止まった赤ん坊)

このように、出来事をただ叙述的に述べていく場合には、劇的現在用法が選択されず、本来的な過去形が用いられるのである。

3.2.　福岡市方言における劇的現在用法の特徴

ここでは、一般に不完成相のアスペクトマーカであるとされるヨルが、不完成相のアスペクトマーカとして機能しない用法の 1 つとして、福岡市方言における劇的現在用法について述べる。福岡市方言の劇的現在用法では、以下のようにヨルの非過去形が用いられ、不完成的な意味を表すだけでなく、完成的な意味を表すこともできる。

(12) 夏祭りの出店で金魚をとってきたんだけど、次の日の朝になったら、もう死にヨルケンネ。

よって、(12) は「金魚が死につつある、または、死んだ」ところを、話し手が目撃したことを表すことになる。つまり、「水を替えてエサをやったら、何とか元気になったけど」と続けることができ、この場合は「金魚は生きている」ので、出来事は不完成的にとらえられていることになる。一方で、「もう全然動かなかったから、庭にお墓を作ってやったよ」とも続けることができ、この場合は「金魚は死んでいる」ので、出来事は完成的にとらえられていることになる。

以下、3.2.1 で形式的な特徴について触れたうえで、3.2.2 で劇的現在用法における無標の

れる。これは、意外性が欠如した場合は、劇的現在用法は現れないからである。よって、動作主体が話し手自身の場合は、ワザトなどといった副詞も共起できない（*は非文であることを示す。例文は作例）。

(a) 昨日の夜、おれ、酔っ払って川に落ちちゃうんだもん。

(b) *昨日の夜、おれ、みんなを笑わそうと思って、わざと川に落ちるんだもん。

形とトルについて述べる。3.2.3 でヨルが不完成的な意味と完成的な意味の両方を表しうることについて、3.2.4 でヨルが完成的な意味を表しているとしか解釈できない場合について、3.2.5 でヨルが完成的な意味を表すことができない場合について言及する。

3.2.1. 共起する形式

劇的現在用法に用いられるヨルは、標準語の準体助詞ノにあたるトや、文末詞的な接続助詞シなどに接続することがあるが、文末詞的なケンネ（標準語のカラネに相当）やモンネを後接させて用いられる場合が多い。無標の形やトルも劇的現在用法で用いられる場合は同様の特徴を持っており、ケンネやモンネは、当該方言の劇的現在用法において、ほぼ義務的に用いられるといえる。また、これらの形式を後接させずに言い切ることはできない。

(13) うちの弟、早く勉強しろって言ったのに、夜遅くまでマンガ読みヨル｛ケンネ／モンネ／ト／シ／*φ｝。

ケンネやモンネに接続して用いられる場合がほとんどであるのは、ケンネやモンネが、話し手の出来事に対する感情・評価の表示に何らかの形で関与しているためであると思われる。なお、本稿で用いる例文は、便宜的によく用いられる～ケンネという形で統一し、後接する形式の違いによる意味の違いには深く踏み込まない。

3.2.2. 劇的現在用法における無標の形・トル

ここでは、ヨルの分析に入る前の準備として、無標の形とトルが劇的現在用法でどういった意味を表すのかについて述べる。

3.2.2.1. 劇的現在用法における無標の形

福岡市方言の劇的現在用法では、無標の形はやや不自然に感じられ、無標の形を用いるよりも、ヨルを用いる方が自然なように感じられる[6]（?は適格性が低いことを示す）。

(14) 昨日、午前中は晴れてたのに、午後からいきなり雨が｛?降る／降りヨル｝ケンネ。

(15) 木にとまってるセミをとろうとしたんだけど、あとちょっとのところで｛?逃げる／逃げヨル｝ケンネ。

つまり、劇的現在用法では、そもそも無標の形は使われにくく、ほぼヨルを用いるのが自然ということになる。したがって、無標の形とヨルがアスペクトの違いによって使い分けられることはない。こういった現象が何によるものなのか、つまりは、ヨルがどういったムード性を持つのかについては、本稿では満足な考察を得ることができなかった。今後

6) 筆者以外の福岡市方言話者（20 代男性 3 名）からも、同様の内省が得られた。

の課題として分析を深めたいと考える。

3.2.2.2.　劇的現在用法におけるトル

劇的現在用法にトルを用いると、出来事はパーフェクト的にとらえられる。つまり、話し手の確認時以前に出来事が起こっていたことを示す。

(16) 家に帰ったら飲もうと思って、冷蔵庫にビールを冷やしてたのに、お父さんが勝手に飲んドルケンネ。

(17) 大切にしてた植木鉢を、子どもが庭で割っトルケンネ。

(18) 今度入ったバイトの新人、初日のことなんだけど、帰っていいって言ってないのに、勝手に帰っトルケンネ。

(16) は、例えば、机の上にビールの空き缶が置いてある状態や、冷蔵庫を開けたときには、ビールが既になかったことを、(17) は、例えば、庭に出たときには植木鉢が既に割られていたことを、(18) は、例えば、知らぬ間に新人がいなくなっている状態や、新人の制服だけがロッカーに残されていたことを、話し手が目撃したことを示す。つまり、トルは結果や痕跡を目撃したことを表すのである[7]。このように、劇的現在用法にトルを用いた場合は、パーフェクト的な意味と解釈されることになる。

3.2.3.　ヨルが不完成的・完成的な意味を表す場合

2節で述べたように、ヨルは基本的に不完成的な意味を表すのに用いられるが、劇的現在用法では、不完成的な意味のみならず、完成的な意味も表すことができる。ここでは、劇的現在用法におけるヨルが不完成的・完成的な意味の両方を表しうることについて話を進める。以下、(19) で主体動作動詞、(20) で主体動作客体変化動詞、(21) で主体変化動詞に、ヨルを用いた場合について論じていく。

(19) 家に帰ったら飲もうと思って、冷蔵庫にビールを冷やしてたのに、お父さんが勝手に飲みヨルケンネ。

(20) 大切にしてた植木鉢を、子どもが庭で割りヨルケンネ。

(21) 今度入ったバイトの新人、初日のことなんだけど、帰っていいって言ってないのに、勝手に帰りヨルケンネ。

ヨルを用いると、(19) は「お父さんがビールを飲んでいる（飲もうとしている)、または、飲んだ」ところを、(20) は「子どもが植木鉢を割っている（割ろうとしている)、または、割った」ところを、(21) は「バイトの新人が帰りつつある、または、帰った」ところを、話し手が目撃したことを明示する。目撃した出来事は、動作・変化の開始直前の段

---

7) ただし、工藤 (2006b) などで示されているように、福岡市方言では、トルは動作継続も表すようになっているので、動作の継続過程を目撃したのであれば、トルも用いることができるようになっている。

階[8]、動作・変化の継続過程、動作・変化全体のいずれであってもよい。(19) の場合だと、例えば、「冷蔵庫からビールを取り出した段階」・「ビールがある程度飲まれていた段階」・「ビールを飲み始めて、飲み終えるまでの段階」、(20) の場合だと、例えば、「子どもが植木鉢を持って落とそうとしていた段階」・「子どもが植木鉢を手から離した段階」・「子どもが植木鉢を持って、割り終えるまでの段階」、(21) の場合だと、例えば、「帰ろうとして着替えなどの準備をしている段階」・「着替えなどの準備を終えて、バイト先を出ようとした段階」・「バイト先を出て行った段階」のいずれも表すことができるのである。よって、例えば (21) は、次のように続けることができる。

(22) 今度入ったバイトの新人、初日のことなんだけど、帰っていいって言ってないのに、勝手に帰りヨルケンネ。まだ帰る前だったから、慌てて引き留めたけど。
〈不完成的〉

(23) 今度入ったバイトの新人、初日のことなんだけど、帰っていいって言ってないのに、勝手に帰りヨルケンネ。気づいたときには、もういなかったよ。
〈完成的〉

(22) は出来事が不完成的にとらえられ、「新人は帰っていない」ことが示される。(23) は完成的にとらえられているので、「新人は帰ってしまっている」ことになる。

このように、基本的には不完成的な意味のみを表すヨルが、不完成的か完成的かという違いを表し分けないようになると、場合によっては (12) や (19) ～ (21) のように、出来事が不完成的とも完成的とも解釈できてしまう。つまり、出来事が不完成的であるか、それとも完成的であるかは、もはや文脈からしか読み取ることができなくなるのである。このような場合、テキスト中で連続する 2 つの出来事の時間的順序は、ヨルが不完成相のアスペクトで解釈されると、後に示される出来事は同時的になり、ヨルが完成相のアスペクトで解釈されると、後に示される出来事は継起的になる。

(24) 昨日妹の部屋に入ったんだよ。そしたら、妹が泣きヨルケンネ。学校で嫌なことがあって、家に帰ってからずっと泣いてたみたい。 〈不完成的・同時的〉

(25) 昨日妹の部屋に入ったんだよ。そしたら、妹が泣きヨルケンネ。たぶん、おれが入る前にノックしなかったから泣き出したんだ。 〈完成的・継起的〉

(24) の場合、後に「ずっと泣いていた」という説明が続くことから、話し手が部屋に入ったときには、妹は既に泣いていたことが表されている。つまり、「話し手が部屋に入った」という出来事と、「妹が泣いていた」という出来事のテクスト的な関係性は同時的である。一方、(25) は、話し手がノックをせずに部屋に入ったことがきっかけとなり、妹が泣き始めたことを意味している。つまり、「話し手が部屋に入った」という出来事と、「妹が

8) 劇的現在以外の基本的な使われ方において、ヨルが動作・変化の開始直前というアスペクトを表せるかどうかに個人差がある（木部 2004 など）のと同様に、劇的現在用法においても、開始直前のアスペクトを表せるかどうかには個人差があると思われる。

泣いた」という出来事は継起的になる。これはまさに、図 1 で無標の形が表すような時間関係である。

ヨルが、劇的現在用法において、出来事が不完成的であるか完成的であるかを明示しなくなり、それが文脈から推測することしかできなくなるのは、一見不便なことのように思われる。しかしながら、劇的現在用法においては、動作・変化の時間的な展開段階の違いを表し分ける必要性はあまりないと考えられる。つまり、事態を客観的に描写する場合と違い、劇的現在用法では事態の生々しさが前面に出るため、時間的展開段階については、表し分ける動機づけが少なくなるのである。アスペクトに焦点を当てる、つまり、動作・変化の時間的な展開段階の違いを表し分けるには劇的現在用法を用いなければよいだけのことである。

(26) 昨日、隣の家の犬が死にヨルケンネ。　〈動作主体の目撃というムードに焦点〉

(27) 昨日、隣の家の犬が死にヨッタ。　〈不完成というアスペクトに焦点〉

(28) 昨日、隣の家の犬が死んだ。　〈完成というアスペクトに焦点〉

(26) は、劇的現在用法のヨルを用いた例なので、発話時に「犬が生きている」のか、それとも「死んでいる」のかは、どちらとも解釈でき、はっきりと分からない。これに対し、時間的展開段階を表し分けるには、ある程度の「冷静さ」のようなものが必要であり、つまり、劇的現在用法で生々しさを積極的に提示する方法は、あまり適当であるとは言えない。したがって、「犬が死につつあった」という段階にはっきりと焦点を当てるのであれば、事態を劇的現在用法で表さず、(27) のように不完成相過去形ヨッタを用いればよい。同様に、発話時に「犬が死んでいる」という段階に焦点を当てるのであれば、(28) のように完成相過去形を用いればよいのである。

以上のように、劇的現在用法においては、ヨルを用いると、元々ヨルが担っていた部分（動作・変化の開始直前と、動作・変化の継続）と、無標の形が担っていた部分（動作・変化全体）の両方が、ヨルという同じマーカで未分別に示されることになる。別の言い方をすれば、不完成相・完成相というアスペクトは形式的には明示されず、劇的現在用法においては、ヨルは「不完成相のアスペクトマーカ」として機能していないと言える。

3.2.4.　ヨルが完成的な意味を表しているとしか解釈できない場合

3.2.3 で述べたのは、不完成的であるとも完成的であるとも解釈できる例であるが、ヨルが完成的な意味を表すことを確認するために、完成的としか解釈できない例を挙げておく。

(29) この間、競馬に行ったんだけど、最終レースで万馬券が当たりヨルケンネ。

(30) この前、知らない人から荷物が届きヨルケンネ。

(31) あいつ、この前の数学のテストで 0 点取りヨルケンネ。

(29) は「万馬券が当たった」ことを、(30) は「知らない人から荷物が届いた」ことを、(31) は「(あいつが) 0 点を取った」ことを、それぞれ話し手が目撃したことを表してい

る。このように、ヨルが用いられていても出来事が完成的であるとしか解釈できない場合が存在するのである。

3.2.5. ヨルが完成的な意味を表せない場合

劇的現在用法において、ヨルが完成的な意味を表すことができるのは、文末で生起した場合に限られる。従属節内の動詞述語にヨルを用いると、不完成的な意味を表すことしかできず、イキナリなどの完成的な意味を含意する副詞も共起できない。

(32) *晴れてたのに、いきなり雨が降りヨルケン、コンビニで傘を買って帰ったよ。〈完成的〉

また、存在動詞オルやアルのように、劇的現在用法以外の基本的な使われ方でヨルが用いられることのない動詞は、劇的現在用法においてもヨルの形をとることはない。

(33) *今朝、庭に出てみたら、足元にヘビがおりヨルケンネ。

(34) *電器屋に行ったら、もう売り切れたと思った激安のパソコンがありヨルケンネ。

このように、アスペクト対立のない存在動詞などには、無標の形のみが用いられる。

(35) 今朝、庭に出てみたら、足元にヘビがおるケンネ。

(36) 電器屋に行ったら、もう売り切れたと思った激安のパソコンがあるケンネ。

ただし、ガでマークされる主格名詞が具体物（(34)、(36) で示した「パソコン」など）ではなく、出来事（(37) で示す「運動会」など）の場合は、ヨルが事態の一時性を表すために用いられる（「昨日、学校で運動会がありヨッタ」など）。これは、基本的な使われ方だけでなく、劇的現在用法でも同様である。

(37) 昨日は雨が降ってたのに、小学校で運動会がありヨルケンネ。

なお、3.2.2.2 で述べたとおり、結果状態を目撃した場合は、トルが用いられる。ヨルを用いると、(38) では「寝ようとしていた」ところを目撃したことになり、結果状態を表す文の意図と食い違う（#はこの文脈では不適切であることを表す）。

(38) 昨日は夜 10 時ぐらいに家に帰ったんだけど、家族全員もう｛#寝ヨルケンネ／寝トルケンネ｝。どうやら 9 時半には寝たらしい。

つまりヨルは、完成的な意味は表すことができても、パーフェクト的な意味は表すことができないのである。

4. 感情・評価の現在に用いられるヨル

ここでは、1 節に挙げた 4 つの用法のうち、疑問詞疑問文を用い、話し手にとっての意外性を前面化する用法にヨルが用いられた場合について述べる。この用法は、工藤（2006a）の「感情・評価の現在」にあたるものである。工藤（2006a）によると、感情・評価の現在とは、疑問詞疑問文などの動詞述語を非過去形にすることで、話し手の否定的な感情・評価（驚き・非難・あきれなど）の表明を行う用法である。本節では、この感情・評価の現

在にヨルが用いられる場合について取り扱う。以下、4.1 で感情・評価の現在について簡単に触れ、4.2 で無標の形およびトルとの関係性について述べる。

4.1.　感情・評価の現在の特徴

感情・評価の現在において、ヨルは不完成相のアスペクトマーカとして機能しているわけではない。以下の例を見られたい。

(39) A：この前の連休は、ハワイに行ったんだ。
　　B：どこ行きヨルト？お金ないくせに。

(40) A：さっき、隣のクラスのCを殴ってやったよ。
　　B：誰殴りヨルト？あいつは怒ると怖いんだぞ。

(41) A：最近、やっと『世界の中心で、愛をさけぶ』のDVDを借りて見たよ。
　　B：いつになって見ヨルト？何年前の映画だと思ってるんだよ。

(39) ～ (41) で用いられているヨルは、文脈からも明らかであるが、不完成相のアスペクトマーカとして機能しているわけではない。また、それぞれのBの発話の意図は、文字通りに疑問詞を用いて聞き手に情報を求めているわけではない。既に取り入れた情報をあえて疑問文で聞き手に提示することで、その出来事が話し手にとって意外なことであったことを表し、同時にそれに対して否定的な感情・評価を前面化させ[9]、「なぜそのような行為に及んだのか」を問い詰めることになる。

4.2.　無標の形およびトルとの関係性

感情・評価の現在に用いられるヨルは、不完成相のアスペクトマーカとしての機能を離れ、何らかのムード性を担っていると思われる。以下に示すように、4.1 と同様の例文で無標の形が用いられないことからも、ヨルが話し手の感情・評価に関与的で、ムード性をともなった表現として機能していることが分かる。

(42) A：この前の連休は、ハワイに行ったんだ。
　　B：*どこ行くト？お金ないくせに。

(43) A：さっき、隣のクラスのCを殴ってやったよ。
　　B：*誰殴るト？あいつは怒ると怖いんだぞ。

(44) A：最近、やっと『世界の中心で、愛をさけぶ』のDVDを借りて見たよ。
　　B：*いつになって見るト？何年前の映画だと思ってるんだよ。

ただし、例外的に、無標の形をとることができる場合もある。

(45) A：今度、宝くじを10万円分買ってみようかな。

---

9) 実際の会話場面では聞き手を非難することが多くなるが、文脈によっては、(c) のように、そうではないこともある。
　(c)（テストで満点を取ったAに対して）B：何満点取りヨルト？すごいじゃないか！

B：いきなり何言い出すト？

動詞を無標の形で用いることができるのは、スルや言イ出スなど、一部の動詞が述語として選ばれたときで、なおかつ否定的な感情・評価の対象となる動作主体が、発話の直前に動作を行った場合に限られるようである。このようにヨルと無標の形がどちらも出現可能な場合、つまり、ヨルと無標の形の対立があるときには、〈不完成相：完成相〉といったアスペクト対立ではなく、何らかのムードによる対立をなしていると思われる。このムード性については今後議論の余地があるが、いずれにせよ、感情・評価の現在においても、ヨルは不完成相のアスペクトマーカとして機能するものではないのである。

また、同じ結果状態を表す場合でも、次のようにヨルが用いられたり用いられなかったりすることがある。

(46)（今は止んでいるが、外に雪が積もっているのを見て）何｛積もりヨルト／積もっトルト｝？

(47)（買い物に行ったが、店が閉まっていて）何｛*閉まりヨルト／閉まっトルト｝？

(46) ではヨルもトルも用いられるのに対し、(47) ではトルを用いるのが普通である。このような感情・評価の現在におけるヨルとトルの対立についても、今後課題とすべき点である。

5. 聞き手の見込みを裏切る予測に用いられるヨル

続いて、聞き手の見込みを裏切る予測をする用法にヨルが用いられた場合について述べる。以下、5.1 でこの用法の特徴について触れ、5.2 で無標の形およびトルとの関係性について述べる。

5.1. 聞き手の見込みを裏切る予測

この用法においては、ヨルは必ずヨルトヤロ（ウ）かヨロ（ウ）という推量の形で用いられる。推量の形であっても、ヨルヤロ（ウ）という形では用いられない。

(48) A：今年の入試は自信があるぞ。今度こそ合格だ。

B：そんなこと言って、また｛落ちヨルトヤロ（ウ）／落ちヨロ（ウ）／*落ちヨルヤロ（ウ）｝。

（標準語訳：また落ちたりして。）

標準語訳からも分かるように、この用法は、聞き手の期待する帰結とは逆のことを述べる、つまり、いわば「嫌味」を言うような用法[10] である。この用法に用いられるヨルもま

10）実際の会話場面では聞き手の気持ちを損なうことが多くなるが、文脈によっては、(d) のように、そうではないこともある。

(d) A：今日の試験は全然できなかった。絶対、不合格だと思う。

B：そんなこと言って、受かりヨルトヤロ（ウ）。

た、不完成相のアスペクトマーカとして機能しているわけではない。このことは、(48) の「入試に落ちる」という出来事には、時間的な展開性がないことからも明らかである。このように、聞き手の見込みを裏切る予測においても、ヨルは不完成相のアスペクトマーカとしての機能を離れていると言える。

ただし、ヨルが完成的な意味を表すことができるのは、聞き手の見込みを裏切る予測を独断的に聞き手に提示する用法で用いられた場合に限られ、タブンなどと共起しうる単純な推量文の中ではヨルは用いられず、また、独話的な～ト思ウの補文内での生起もできない。

(49) *あの優秀な学部生は、卒業したら、たぶん大学院に行きヨルトヤロウ。

(50) *明日は雨らしいから、遠足は中止になりヨルトヤロウと思う。

5.2.　無標の形およびトルとの関係性

この用法においても、無標の形はやや不自然であるが用いることができる。

(51) A：今日のテストは自信があるぞ。今度こそ合格だ。

B：そんなこと言って、また {?落ちるトヤロ（ウ）／?落ちろ（う）／*落ちるヤロ（ウ）}。

このように、やや不自然ながら無標の形も用いることができ、ヨルを用いた場合と同様に、アスペクトとしては完成的な意味を表すことができるが、やはりヨルを用いた方が自然であるように感じられる[11]。これもまた、3、4 節で述べたような用法と同様に、ヨルと無標の形が何らかのムード的な対立をなしているからであると思われる。

さらに、2 節で述べた劇的現在用法と同様に、結果状態について言及するときにはヨルは用いられない。

(52) A：昔よく行ってたラーメン屋に行ってみようかな。

B：もう潰れ {#ヨルトヤロ（ウ）／#ヨロ（ウ）／トルトヤロ（ウ）／トロ（ウ）}。

(52) ではトルを用いるのが普通である。このことから、劇的現在用法と同じく、この用法においても、ヨルは完成的な意味を表すことができるが、パーフェクト的な意味を表すことはできないことが分かる。

6.　動作主体や出来事に対して否定的な評価を前面化する用法

最後に、動作主体や出来事に対して否定的な評価を前面化する用法にヨルが用いられた場合について考える。この用法においては、ヨルはヨルトヤケン[12]という形で用いられる[13]。

---

11) 筆者以外の福岡市方言話者（20 代男性 3 名）からも、同様の内省が得られた。

12) 接続助詞ケンは、ここでは文末詞のように機能する。

13) ヨルトヤモン（ヨ（ル）ッチャモンという音声的なバリアントで出現する場合が多い）という形も存在するが、目の前で直前に起きた出来事に対しては用いることができず、どちらかと言うと 3 節で述べたような劇的現在用法に近いと思われる。

この用法においても、ヨルは不完成相のアスペクトマーカとしてふるまうわけではない。

(53)（財布を失くした友人に対して）こいつ、財布失くしヨルトヤケン。

（標準語訳：財布失くすんだから（失くしてやがんの）。）

この用法は、対象となる動作主体や出来事に対し、驚き・非難・あきれなどといった否定的な評価を下すものである。この用法においてもまた、ヨルが不完成相のアスペクトマーカとして機能しないことは、ヨルが（53）のように時間的な展開性のない事態に対して用いられることから明らかであろう。

この用法においても、無標の形はやや不自然である。

(54)（財布を失くした友人に対して）?こいつ、財布失くすトヤケン。

また、結果状態について言及するときにはやはりヨルは用いられず、トルが用いられる。

(55)（買い物に行ったが、店が閉まっていて）{*閉まりヨル／閉まっトル} トヤケン。

7. まとめと今後の課題

以上、ヨルは、以下の 4 つの用法においてアスペクトマーカとしての機能を持たないようになる。

（ｉ）話し手自らが目撃した具体的出来事を、感情・評価的に表現し、発話時における記憶の生々しさを伝える劇的現在用法（工藤 2006a）

（ii）疑問詞疑問文において非過去形で用いて、動作主体や出来事に対する話し手の意外性を前面化する用法（工藤（2006a）で「感情・評価の現在」と呼ばれている用法にあたる）

（iii）ヨルトヤロ（ウ）やヨロ（ウ）の推量の形で用いられ、聞き手の見込みを裏切る予測をする用法

（iv）ヨルトヤケンという形で用いられ、動作主体や出来事に対する否定的な評価を前面化する用法

本稿では、以上の 4 つの用法に現れるヨルは、いわゆる不完成相のアスペクトマーカとしては機能しないことを述べたが、これらの用法でヨルが担うムード性については具体的な考察が及ばなかった。丹羽（2005）は、従来の「アスペクト的対立をなす」という考え方から脱し、ヨルが「現場での目撃・経験という個人的な主観性を表すもの」であるという結論に至っている。この見解は非常に示唆に富むが、この説明だけでは、ヨルのムード性を過不足なく記述することは難しそうである。本稿で取り上げた 4 つの用法に共通して見えてくるのは、「意外性」などといった感情・評価面でのムード性であり、また、動作主体や出来事に対して、当事者として向き合うのではなく、いわば第三者的に事態を評価するという共通性もありそうである。さらに、本論では詳しく述べなかったが、全ての用法

(e)（友人が目の前でガムを踏んだのを見て）*ガム踏みヨルトヤモン。

(f) あいつ、この前ガム踏みヨルトヤモン。

において、ヨルが肯定形でしか現れないことも特徴的であると言えよう。今後は一方言のみならず、ヨルを持つ全ての方言を視野に入れた、ムード的な観点からの記述が望まれる。

【参考文献】

木部暢子（2004）「福岡地域のアスペクト・待遇・ムード」工藤真由美（編）『日本語のアスペクト・テンス・ムード体系―標準語研究を超えて―』ひつじ書房

工藤真由美（1993）「現代日本語における過去の出来事の表現　その 2―会話文の歴史的現在用法を中心に―」『日本語とアジア諸言語との対照的研究―テンスとアスペクト―』横浜国立大学（科学研究費成果報告書）

――――（1995）『アスペクト・テンス体系とテクスト―現代日本語の時間の表現―』ひつじ書房

――――（2004）「研究成果の概要―アスペクト・テンス・ムードを中心に―」工藤真由美（編）『日本語のアスペクト・テンス・ムード体系―標準語研究を超えて―』ひつじ書房

――――（2006a）「話し手の感情・評価と過去の出来事の表現」土岐哲先生還暦記念論文集編集委員会（編）『日本語の教育から研究へ』くろしお出版

――――（2006b）「日本語のさまざまなアスペクト体系が提起するもの」日本語文法学会（編）『日本語文法』6 巻 2 号　くろしお出版

丹羽一彌（2005）『日本語動詞述語の構造』笠間出版

ひらつか　ゆうすけ（大阪大学大学院生）

yusukehiratsuka@hotmail.com